

3. タネのまき方

(1) 基本は3つ

タネのまき方にはばらまき、すじまき、点まきがあります。

①すじまき

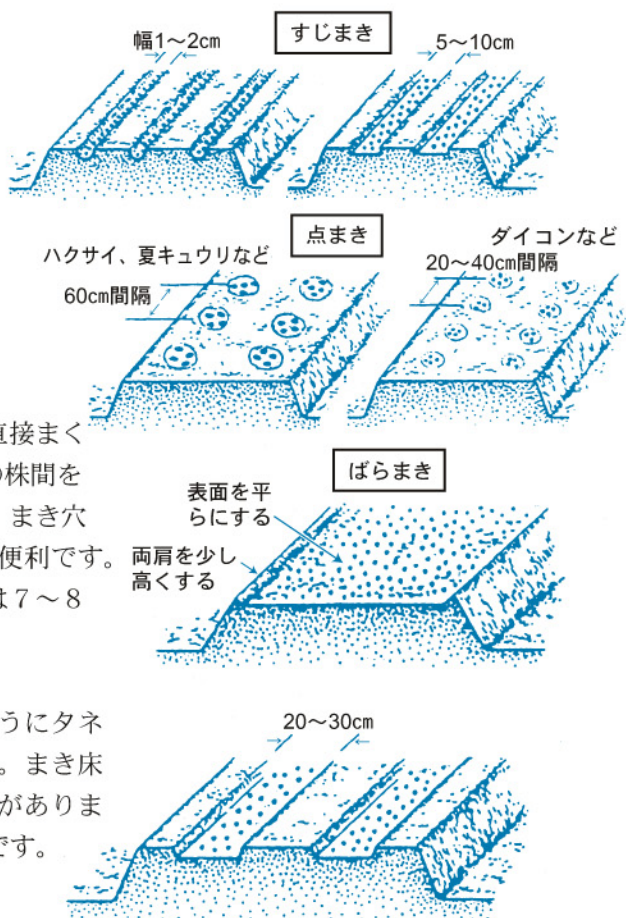
タネの大きいものや、大きく育つ野菜に適し、日光を十分当てるのに便利なまき方です。畝にまき溝を作り、適当な間隔でタネをまきます。畝に平行、もしくは狭いところでは直角にまく方法もあります。

②点まき

ダイコンやハクサイなど大きく育つ野菜を直接まく場合に適しています。20~60cmくらいの一定の株間をとって、1ヵ所に3~7粒ずつ種まきします。まき穴はビール瓶の底などを畝へ押しつけて作ると便利です。トウモロコシなどは3~4粒、ダイコンなどは7~8粒がよいでしょう。

③ばらまき

ホウレンソウ、コマツナなどの葉菜類のようにタネの小さいものは、このまき方が適しています。まき床全面にまく場合と20~30cmの幅にまく場合とがあります。いずれにしてもむらなくまくことが大切です。



(2) 覆土は種子の2~3倍

川砂か畑の土をふるいでふるって、まき床に均一にかけます。雑草の種子の入った土や粘土質の土はさけた方がいいでしょう。

覆土の厚さはタネの直径の2~3倍くらいが目安ですが、土の性質やタネの特性に合わせてかける量を加減します。ネギなどは光が当たることによって発芽しやすくなるため、タネが見えかくれするくらいに薄く土をかけます。

灌水は、勢いよくやるとタネが流れるので、ジョロで静かに行います。発芽までは乾かさないう、ワラや新聞紙、寒冷紗で全面を覆うと良いでしょう。これらは取り遅れないように注意しましょう。

